

論理的思考力&発想力入試 言語分野

受験番号

氏名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから6ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚と下書き用紙に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてはかまいません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は五十分です。

次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。なお、資料1、資料2は必要に応じて確認に使ってください。

Ⅰ みなさんの家では新聞を取っていますか？ 取っていない家庭が多いと思います。今はインターネットが普及しているので、わざわざ新聞を取らなくても、ネットで無料の情報が好きなだけ検索※けんさくできるようになっています。

「新聞なんて、必要なの？」そんな声も聞こえてきそうですね。でも新聞はやはり必要だと私は思います。ネットにメリットがあるように、新聞にもメリットがあるんです。

そのメリットは何かというと、ひとつにはネットの画面で見ると、紙に印刷された文字で読むほうが記憶※きおくが定着することです。

ネットの情報はどうしても画面をサーッと流してしまいがちです。感覚的に文字があたまにひっかからないので、記憶にあまり残らない。サーッと読めてしまうのが、ネットの良いところでもあるのですが、記憶に定着するかという点で見たら、紙に印刷されたもののほうが圧倒的に有効なのではないでしょうか。

なぜかというと、紙に印刷されたものは、文章が書いてあった場所や形を記憶にとどめやすいからで

す。

みなさんも新聞の紙面を思い出ししてみてください。見出しの位置や大きさがみな違※ちがいますし、記事が縦長だったり、横長だったり、レイアウトがいろいろですね。みな違うので、記憶にひっかかるフック※フックがたくさんあるのです。

教科書もそうですね。私は世界史や日本史を勉強するとき、「あの話は教科書の右上に書いてあった」「あの項目※こうもくは左すみにあった」など、場所や位置で記憶していました。

でももしそれらの事項がバラバラにタブレット※タブレットの画面に出てきたら、ものすごく記憶しづらかったと思います。ネットの場合、全部が横書きの同じパターンで出てくるので、メリハリがなく、記憶に残りにくいのです。

たとえば、新聞の面は住宅地で、そこに掲載※かいてされている記事は家のようなものです。新聞の場合はいろいろな形の家がさまざまなレイアウトで存在しているのです。和風テイスト※テイストのあの家とか、赤い屋根の洋館のあの家などひとつひとつが記憶しやすい。

一方、ネットの記事は整理されているので、同じ形の家がずっと続いていくような感じですか。つまり人工的な街なみななので、どの家をとっても記憶しづらいのです。

新聞のほうがいりろな記事を、航空図のように一覧できる良さがあります。

この「一覧性」が新聞のメリットです。ぱっと開いたときに全体を見通しやすいので、ざっと見出しを見て、その中でセレクトして記事を読むことができます。

ネットは順番に流して見ていくことしかできませんから、新聞のような一覧性はないわけです。

もちろんネットにも良い点があります。記事を検索することにかけてはネットの右に出るものはありません。過去の記事の検索はネットなら一発できます。関連する記事をまとめて読むこともできます。

これが新聞だと図書館まで行って、いちいち他の新聞を調べたり、過去の縮刷版を広げなければいけません。その手間たるや、考えただけで気が遠くなります。ネットがない時代には、一日中、図書館にこもってそんなこともしていたわけです。

そう考えるとネットの便利さははかりしれません。でもだからといって、ネットだけで事足りるわけでは

はないと私は思います。

印刷された新聞ならではの良さがある。それを忘れてはいけないと私は思います。

Ⅱ新聞を読むメリットはそれだけではありません。

新聞を読んでいると、毎日情報が入ってくるので、「情報感度」があがって、人と深い話ができるのです。新聞を読んでいる者同士であれば、当たり前政治や経済の話ができます。

でも一人が新聞を読んでもう一人が読んでいなければ、そういう話はできません。「この人ニュースを知らないな」と気づかれると、そもそも相手はそういう話題はふってこないし、仮にしたとしても、議論は深まりません。

そうなりますと、どうしても社会以外のことに話題が行ってしまいます。「あのお店は美味しいよ」とか「最近、元気？」とか、ごく日常的な話題ばかりになってしまい、そういう次元の話ばかりしていると、社会に向けて意識が向きづらくなります。

(中略)

かつての日本には毎日新聞の情報を入手しないと気が済まない活字中毒の人たちが9割はいました。すごい社会だったんですね。

しかし私達はそれをごく当たり前のことと思っていたので、日本がひじょうに知的レベルの高い社会であることに気づきませんでした。

そして今、新聞を読まない人たちが圧倒的に増えてしまい、日常会話として政治、経済の深い話ができなくなりました。

物事の価値基準も変わってしまいました。基本情報量の多い人間が判断するのと少ない人間が判断するのでは、判断の精度にも大きな差が生まれます。

情報が少ない人間が判断するようになるのかというと、そのときの気分や個人の好き嫌いで判断するしかなくなります。大切なことを、そのときの気分や好き嫌いで判断するわけです。今まさに日本ではそういう状況が進んでいるのです。

Ⅲ 情報は新聞から得る、という話をすると、「ニュースならネットやテレビで十分知ることが出来ますよ」と言う人がいます。みなさんもそう思っているのではないでしょう。でも、今は情報化社会と言われるわりには、収集している情報が圧倒的に少なかったり、偏っていると思います。(中略)

やはり新聞を読んでいるかどうかで情報量が決定的に違ってしまふ。新聞というのは情報収集の柱な

んです。結局、ネットでも積極的にニュースなどを読むのは新聞も読んでいる人たちのようです。

インターネット社会といっても、社会に関心がなければ自分の興味があるところしか見ません。そうすると情報の範囲が限られてしまいます。

しかし新聞を読む人は、興味がある記事以外にも一面や経済面、社会面などひと通り眺めますし、大見出しになっているところはイヤでも目に入ります。

つまりいろいろなアンテナが立っているのです、中国経済の話や安保法制、ヨーロッパの難民問題のこ

となど幅広くアンテナにひかかってきます。そういう人がネットのニュースを見るときは、新聞である程度の情報が入っているのです、ネットでも重要な記事や社会問題になっていることなど、主体的に記事をセレクトし、関連記事をまとめて読めるようになります。

私も新聞が手元がない場合は、ネットのニュースを読みますが、日頃から新聞を讀んでいて情報に対するベースができているので、関連した情報をうまくくっつけて探し出すことができます。ネットのニュースはあくまで新聞記事のサブとして取得するのが正しいやり方だと思ひます。

ところでネットで流しているニュースは、誰がつくっていると思いますか？

※ ヤフリーニュースなど、ネットに載っているニュースはIT企業の社員が取材して書いたものではありません。新聞各社が出している記事を短くまとめて要約して出しているのです。だからネットのニュースの詳しい情報源は新聞にあります。

※ しかし今、「メディアとはなんですか？」と質問して「新聞」と答える人は1/2割しかないのではないでしょうか。情報提供という意味で新聞はひじょうに大きな役割を果たしているにもかかわらず情報源が新聞であるということにあまりに関心が払われていない。それが現状です。

※ 私はテレビのコメンテーターを引き受けたとき、驚いたことがあります。それはテレビの情報コーナーで新聞を拡大したものをボードに張り付け、解説していることでした。私自身も情報番組でそうした新聞の解説をしました。最初のうち、それをやっているのと、とても不思議な感じがしました。

「新聞くらい、みんな読んでいるはずなのに、なぜわざわざ新聞を拡大してテレビで見せるのだろう」※と違和感を持ったのです。

でも今の時代はそれぐらい新聞を取る人が少なく

なっていたのだということがありました。ましてや私の家のように1軒で何紙も新聞をとるところなどほとんどないでしょう。

テレビの新聞コーナーでは、3紙くらいを比較するので、同じ問題についても新聞によって見解が違うことがわかります。なるほどテレビで新聞を流す意味もあるのだなと納得したことを思い出します。

新聞は読まなくても、ニュースに関心のある人はひじょうに多いので、テレビでニュースについてコメントするときは、「何々新聞によると」など、新聞に基づいて紹介したほうが視聴者も安心します。

なぜなら新聞には事実が書かれている、とみんなが思っているからです。読まなくてもたいいの人には新聞への信頼感があります。

(齋藤孝 「新聞力」)

※注

検索 ——— 文書・カード・データなどから必要な情報をさがし出すこと

メリット ——— 利点

レイアウト ——— ものを配置・配列すること

フック ——— 取っかかり、取りつく手がかり

タブレット—— ネットワークに接続するための携^け帯^{たい}式の機器

テイスト—— 味わい

セレクト—— 選ぶこと

精度—— 正確さ・精密さの度合い

サブ—— 補助

IT企業—— コンピュータを使った事業活動を行っている企業・会社

メディア—— 新聞・テレビ・インターネットなど情報伝達のなかたちとなるもの

コメンテーター—— テレビ・ラジオなどのニュースや情報番組の解説者

違和感—— まわりのものとの関係がちぐはぐ

で、食い違っている印象を受けること

〔問題 1〕

Ⅰを読んで、新聞とネットについて、筆者の考える両者の良い点をかじょう書きで二点ずつあげなさい。

〔問題 2〕

Ⅱの最終行に、—— 「そういう状況」とありますが、どのような「状況」なのか、「く状況」と続くように、五十字以内で説明しなさい。

〔問題 3〕

Ⅱに新聞のような「見出し」をつけてみてください。その際、必ず本文中から見出しの中心となる言葉を見つけて用いること。

〔問題 4〕

私たちが情報を収集する時、新聞・ネット・テレビをどのように使い分けていったらよいと筆者は考えていますか。わかりやすく説明しなさい。

★ここからは、あなたの考えを書く問題です。

〔問題5〕

資料3

発行部数は年々減少しており、二〇四〇年には紙の新聞はなくなるのではないかとも言われています。実際、アメリカでは地方新聞の経営が苦しく、次々と廃刊（刊行をやめること）に追い込まれているそうです。

すると、地方紙のなくなったそれらの町では政治家の汚職（地位や仕事上の立場を利用して個人的利益を不正に得ること）がはびこったり市長選挙などの投票率がどんどん下がったりしてしまふ事態が起こったそうです。新聞の廃刊が大きく影響したと考えられています。

新聞のないことがどのような影響を与えて、こういった状況を作り出していったのだと思いますか。この町に新聞があった時を想像し比較しながら、あなたの考えを百二十字以内でまとめて書きなさい。

〔問題6〕

今の社会では、情報に関連して「メディアリテラシー」と呼ばれる能力が非常に重要視されています。「メディアリテラシー」とは、インターネットや新聞・テレビなどが発信する情報を見極め、正しく取捨選択し、理解・活用する能力のことです。

この「能力」を身につけることがなぜ今の社会では必要なのだと思いますか。その上であなたは社会の一員として「メディア」とどのように関わっていきたいと考えますか。後の条件を満たすように三百五十字から四百字でまとめなさい。

条件

- 1 「現代の社会は」で始め、今の社会にメディアリテラシーがなぜ必要なかを、理由や根拠をあげて、はっきりと書くこと。
- 2 よりよい社会を作るため、あなたがどのようにメディアと関わるつもりかを具体的に書くこと。
- 3 本文を読んであなたが知ったことや考えたことを説明の中に交えて書くこと。
- 4 学校の授業や本などから知った話題や実際に体験したことなどを説明の中に交えて書くこと。

